

学位論文に係る審査委員の体制、審査の方法及び項目

心理学専攻修士課程

修士の学位の授与に関して、学位申請者が提出した修士論文を、以下の心理学専攻修士課程学位（修士）論文評価基準について、主査1名と副査2名以上により論文審査、口頭試問及び修士論文発表会による総合評価を行い、可否(合否)を決定(判定)する。

「総合福祉研究科における学位論文等の評価基準」

1. 社会福祉学専攻博士前期課程学位論文（修士論文、特定課題研究レポート）の評価基準

2. 心理学専攻修士課程学位（修士）論文評価基準

学位論文（修士論文）の評価基準として以下の表3のとおり10基準を選定した。

これらの基準について、A：適切、B：不適切、C：非該当、で評価する。

評価が「B：不適切」の場合は指導教員の指導のもとに修正し、論文発表会（プレゼンテーション）での発表に反映させる。

表3 心理学専攻修士課程学位論文（修士論文）評価基準

番号	評価基準
1	大学院要項の「修士論文の体裁（書式）と提出要領」に適合しているか
2	先行研究を踏まえているか
3	問題・目的の設定が明確であり適切であるか
4	専門領域に照らして、研究の意義が明確で専門領域に貢献できるか*
5	研究目的に照らして、研究方法ならびにデータ収集、分析方法が適切か
6	論理の展開に一貫性があるか
7	設定した問題の解明が的確になされているか
8	研究結果、結果に対する考察、今後の課題が明確に述べられているか
9	研究倫理上の配慮がなされており問題はないか
10	引用文献や参考資料は妥当であるか

*基準4は社会福祉学専攻と異なる基準

3. 社会福祉学専攻博士後期課程学位（博士）論文評価基準 <省略>

4. 社会福祉学専攻博士前期・後期課程・心理学専攻修士課程における口述試験評価基準

各専攻・課程における口述試験においては、論文評価の結果を踏まえた上で、以下の表5の3つの評価基準についてS：大変優れている、A：優れている、B：普通、C：努力が必要、D：多大な努力が必要 の5段階で評価する。

表5 社会福祉学専攻博士前期・後期課程・心理学専攻修士課程における口述試験評価基準

番号	評価基準
1	専門的概念をよく理解し、正しく使用して話すことができたか
2	審査員の質問を正確に理解し、質問の主旨に的確に対応して回答できたか
3	論理的に、順序立てて、明確に、説得的に話すことができていたか

5. 社会福祉学専攻博士前期・後期課程・心理学専攻修士課程における論文発表会での評価基準

各専攻・課程における論文発表会においては、論文評価および口述試験の結果を踏まえた上で、以下の表6の3つの評価基準についてS：大変優れている、A：優れている、B：普通、C：努力が必要、D：多大な努力が必要 の5段階で評価する。

表6 社会福祉学専攻博士前期・後期課程・心理学専攻修士課程における論文発表会での評価基準

番号	評価基準
1	論理的に、順序立てて、明確に、説得的に話す能力があったか
2	説明資料（パワーポイントを含む）は正確かつ理解しやすいように作られていたか
3	論文審査・口述試験での指摘内容が修正されて発表がなされていたか